



# 卓 話



## 「地区協議会について」

### 2005～2006年度地区協議会実行委員会

実行委員長 小嶋 大吾氏  
(東京上野RC)

#### 「来る地区協議会の心構えと

#### 前年度の経験から」

昨日ガバナー月誌が届き、昨年度の会計報告が掲載されていました。地区協議会が終わって、会計報告を出しましたところ何の連絡もなく、何か問題があったかと落ち着かなく思っていました。当初、昨年させていただいた地区協議会のホストクラブとしての経験を公の場で話しても本音が言えず、表向きだけの話になり、実際の事が伝わらないのではないかと思いました。しかし打ち解けた夜間例会ということで、何かお役に立つことがあるかと思い、一番苦労した柳田会員と二人で参上致しました。



正直言いまして私達のクラブが地区協議会のホストの話を聞いた時、それがどういうことか、又どこから手をつけていいのか分からない状態でした。そうしているうちに日が過ぎて行き、柳田会員と都筑会員と三人で話し合ってみたものの、なかなかクラブのメンバーがついてきてくれません。「どうってことはないだろう」という何か白けた感じとでもいまいしょうか。私共のクラブも過去1Mで2回程ホストクラブをしましたが、その時の雰囲気と地区協議会が違う事を感じ、その違いを私なりに考えてみました。1Mの場合は卓話の題目をこちらから選んで設定する等、自分達のクラブの意思で企画し、自分達であちこち駆けずり回って会を盛り上げていけます。しかし地区協議会のホストの場合は自分達が勝手に動く事が出来ないのです。例えばプログラムを作るにしてもガバナー、ガバナーエレクトから原稿を頂くのですが、その際にはガバナー事務所を通さなくてはならないですし、地区の委員は2月半ば頃の諮問委員会で決まりますから、部署に誰がつくかということそれまではプログラムに入れられない。この様な具合でなかなかスタートが切りにくいのです。そして、どの様にしたら良いのかと試行錯誤しているうちに時間だけが過ぎていきました。

しかし幸いに今年度のガバナー、当時はガバナーエレクトでした小澤ガバナーが大変熱心で、11月始めに次年度の地

区委員長を連れて私共のクラブに来て会合を持ってくれました。ガバナーと面と向かって小さな部屋で話をすると親近感もわいてきます。そしてそれがスタートとなり、だんだん会員も興味を持ってくるようになったのです。多分四谷の方でも今一番実行委員長の方がやきもきしている時期ではないでしょうか。会員にメッセージを流しても、受けてくれているのですが、では何をやったら良いのか、委員長も返答が出来ません。しかしガバナーとの会合を重ねるにつれて、特にガバナーが研修から帰って来てからは、仮定の段階から具体的な話へと進んでいきました。例えば部門別にクラブ協議会を分けるにしてもそれまでは正式には決まらない為、プログラムにしても前年度を踏襲して部門別の項目を作っておくだけなのですが、ガバナーが帰ってはじめて具体的なプログラム作成が出来るようになります。つまりそれまで思案だった事が実質的に動き出し始めます。又会合を重ねますと自分とガバナーの距離がどんどん縮まっていくのを感じます。小澤ガバナーは研修会で日本代表のガバナーが全員揃って舞台上上がり「マツケンサンバ」を踊ったというような楽しい話をしてくれました。そうなるともちらも次第に打ち解けて色々な質問も出て会がだんだん盛り上がっていきます。こうして私達はクラブを活性化させていきました。なるべく地区の方々とお会いする機会を持ったほうが良いと思います。

小澤ガバナーが地区協議会をやるにおいて最初に私達に伝えた事は、地区協議会を見ていると時間の無駄が非常に多いのでそれを解決する事。又簡素にしてしかも中身を充実した地区協議会にするという事でした。まず無駄な時間をなくすという事ですが、私達が考えたところ一番無駄で時間が費やされるのは、椿山荘で協議会をする場合、部門別の部屋があちこちに分かれている為、第1回の本会議から部門別に移動する時間がかかるという点でした。そこでそれを改善しようと、具体的に今までは地区別に座っていたのをやめて協議会単位で座って頂く事にしました。そして部門別会議の部屋が遠い方は出口近くに、部屋が近い方は最後に出て行けるように手前に座って頂き、出入りをスムーズにすることを考えたのです。

又それまで開始の時間が12時半と中途半端な時間でしたので、椿山荘内で事前に食事をという方が集中して混雑し、問題があるようでした。そこで開始時間を1時にずらし、来る方も余裕をもって食事を済ませられるようにしました。それから部門別協議会のリーダーの発表ですが、私達の前年度の地区協議会で委員会の人一人ずつ発表したため非常に時間がかかっておりましたので、発表は一人ではとガバナーに提案したところ許可されましたので

そのように取り決めました。この様にガバナーといろいろと連絡を取っているうちに、委員長だけではなく会員の方にも色々伝わり実際のスタートとなったのです。

申し上げたように地区の方々との連携が大切ですが、特にその中で忘れてはならないのはガバナー事務所とのコンタクトです。私達は要領が悪く、事務所とうまくコンタクトが取れずに度々お叱りを受けたことがあります。資料が来た時にはまずガバナー事務局に聞いた方が良いと思います。一番苦労するのが事務局の方だと思いますが皆さんで是非手助けをして頂きたいと思います。私達は事務局へ何度も行き、それこそ最後の日曜などは午前から一日中お世話になりました。最後に、ガバナーとガバナーエレクトがいらっしやいますが、地区協議会はエレクトが主体になります。ガバナーには少し控えて頂くのですが、その辺もやはり気を使って頂いたほうが良いかと思えます。

### \* 柳田吉彦副実行委員長 \*

私は副実行委員をやらせて頂きました。IMのホストをやった経験があるし、小嶋先生、私そして都筑会員、あと事務局の4人でなんとかなるだろうと思っていましたが、予想よりも正直いって大変な事でした。ただ小嶋先生もおっしゃった通りガバナーと仲良くなれ、また地区と近づけるという利点もあります。それまでガバナーは監督に来るというイメージがあって近寄り難かったのですが、何度もガバナーや地区幹事の方とお会いして、どうしようかと相談しているうちに親しくなり、良い関係が出来た事が我々の財産となりました。ですから皆さんもきっとそんな事を思われるのではないかと思います。

まず皆さんイメージして下さい。当日椿山荘で一時から始まります。まず玄関・エレベーター・会場の前とお出迎

えがあります。そして登録、名札をつけてもらう、資料を配布するといった事があります。ここで地区ごとに登録の場所を作らなくてはならないし、当日出席者が変更したり、突然いらっしやる方がいる為結構大変です。そしていよいよ全員集まったの本会議が開かれます。司会もいるし、マイクや看板も用意し、皆さんをお世話する人もいなくてはなりません。その時に席順を決めるのがまた大変です。例えばパストガバナーを中心に左右どのように席を配置していくのかなど考えなくてはなりません。

また先にお話しましたように、少し工夫して本会議の会場から次の会場へ行きやすくする為に、協議会毎に座っていただきました。本会議が終わった後はそれぞれの部門別協議会が集まって勉強をします。我々は各協議会に人を配置しますが、この時各地区の委員会で資料を配ったり、司会をしたりするので我々は殆どやることはありません。せいぜいマイクを出す、テープを扱う事くらいです。そして部門別協議会が終わりましたら、本会議に戻り、各部門別に発表があります。この時に考えておかないと時間が伸びていってしまいますので、これをいかに短くするかという事も大切であると思います。ここまですと後は懇親会だけです。BGMを入れたり、コンパニオンを呼んだりどうぞ工夫してみてください。このような流れですが、やはり当日のパフォーマンスが勝負ですので皆さん一日頑張ってください。また本番できちんと出来るかどうかは前の準備が重要です。先ほど申し上げた登録の名前の確認、名札の製作や看板、垂れ幕の準備、これは私達総務委員会がやりましたが前の日の晩までかかって本当に大変でした。当日勝負とは申しましたが、その前の準備をきちんと行わないとうまくいかないと思います。来年の4月12日、ここにいらっしやる方、力を合わせれば必ず出来るかと思えます。皆さんのご活躍を期待しています。